

主体的で対話的な学びの工夫についての小中連携

I 主題設定の理由

本地域は笛吹川中流域に広がる果樹地帯に位置し自然も多く残る地域である。JR 山梨市駅および国道 140 号、国道 20 号また、西関東道路などの交通の利便性から宅地が増えている場所もみられる。しかし、地域全体として少子高齢化が進み児童生徒数は減少傾向にある。

児童生徒は、全体的に明るく素直で、何事も前向きに取り組むことができる雰囲気がある。

これまで、南中学校学区の 4 校の教職員が同じ地域に学ぶ児童生徒の教育に携わる立場で、共通課題を確認したり、地域の教育資源について臨地研修を行ったりしてきた。また、各校輪番で授業参観を実施し児童の実態を把握し情報交換を行うとともに、児童・生徒の実際の指導をどうしたらよいか考え話し合ってきた。ここ数年は、確かな学力の育成という共通課題のもと、家庭学習の定着や自学ノートの取り組みについて 4 校でとりくんできた。今年度は、これまでの取り組みを継続しつつ、新学習指導要領の実施に伴い、主体的で対話的な深い学びに視点を当て、学習指導における小中連携について模索していきたいと考え研究主題を設定した。

II 研究の内容

1 第 1 回交流研究会

学習会の予定 コロナ感染予防措置により未実施

2 第 2 回交流研究会

(1) 日 時 令和 2 年 11 月 4 日 (水) 15:30～

(2) 場 所 山梨南中

(3) 目 的 コロナ禍における主体的で対話的な学びの工夫について、各校の取り組みについて意見を交換し合い今後の教育活動に生かしていく。

(4) 内 容 低学年ブロック・中学年ブロック・特別支援ブロック・高学年ブロックの 4 つのグループに分かれての取り組みの交流と話し合い。
確かな学力の定着について、主体的で対話的な学びの工夫についての現状と課題。

III 成果と課題

- ・小中 4 校でそれぞれ、コロナ禍ではあるが対話的な学びを成立できるよう工夫して取り組んでいた。活動する人数を制限する。部屋や場所を分ける。席や机の配置を工夫する。立ち位置をマークするなどして、対人的距離や空間の確保を行う。時間を区切る、活動時間を短くするなどを行い、3 密を避けて実験・実習・話し合いやグループ活動などを行っている。
- ・直接的な活動や対面しての話し合いの代わりに、ICT を活用することによって主体的な学びを工夫することができる。既存のタブレットを活用した事例が報告された。今後、児童生徒一人一台タブレット PC 端末配備に伴って、さらなる活用の工夫ができるよう、教職員も活用を研修していく必要がある。
- ・小中連携のテーマや内容について、より具体的な取り組みができる内容を考えていった方がよい。例として、生徒指導、道徳・学習指導、陸上やクラブ指導（中学生が小学校へ訪問指導）、職員の交流、不登校の課題についてなど。

(ブロック長 渡邊 満智子)